

第79回 川口市自立支援協議会 議事要旨

日 時：令和 7年 7月 7日（月）

14：00～

会 場：川口市立青木会館 1階 会議室 A・B

1. 開 会

【福祉部次長兼障害福祉課長より挨拶】

日頃から本市障害福祉行政にご理解ご協力を承り感謝申し上げます。

障害者福祉計画を策定してから2年が経過する。施策の進捗状況や達成度合いについて評価することとなっているので、後ほど報告書をご覧いただき、ご意見いただきたい。資料等が多いので、後日、担当職員までご意見をお寄せいただいてもよい。

その他、検討・報告事項についてもご意見・ご質問を伺いたい。

円滑な協議会運営について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【出席者自己紹介】

- ・出席者より自己紹介。

2. 議 題

(1) 日中サービス支援型共同生活援助について

【事業報告について（2事業所）】

障害福祉課課長補佐兼施設係長より

- ・日中サービス支援型グループホームは協議会で年1回評価を受けることになっている。現在4事業所が登録しており、本日はうち1事業所から報告がある。
- ・また、新規開設予定事業所、1事業所より事業計画の説明がある。

○日中サービス支援型グループホーム A

- ・都内で共同生活援助(介護包括型)の運営の事業実績がある。
- ・川口市に開設を決めた理由としては、法人所在が富士見市にあること、担当者が川口市内で医療法人に従事した経験あることがあげられる。
- ・法人理念である「その人らしく、住み続けられる福祉の追求」に加え、「医療との連携」に重点を置いている。
- ・今後、65歳以上の受け入れもテーマとして取り組む予定。

Q)障害種別の受け入れについて。全障害種別の受け入れを想定しているが、今ま

での実績の中で経験があるということによいのか？

A)現状は、通常の戸建てを活用しているため、知的障害、精神障害の方、若干名の難病の方が内訳となっている。今回は、バリアフリーの構造となっており、改めて身体の方の受け入れもと考えている。

Q)お風呂は特浴ではないのか？

A)現状に関しては、特浴ではない。今回については、機械浴あり。

Q)医療的ケアの受け入れ想定範囲について。

A)ボーダーとして、いわゆる一番重い方として、ALSの方、人工呼吸器の方等は予備電源がないこともあり難しい。日常的なインスリン等の行為が必要な方は大々的に受けていきたいと思っている。端の吸引も特定行為の研修等を受講し、しっかりと基盤を整えて受け入れていきたい。

意見)法人の理念について。今は障害を「持つ持たない」という言い方をしない。「あるかないか」という表記の方が適切かなと思う。また、障害と個性を並列して表記してあることに違和感がある。

Q)これまで包括型でされてきたが、日中支援にしようと思った理由は？

A)都内が今は主なエリアだが、川口は川口でニーズを捉えながら事業展開していきたい。法人全体で多様化するあらゆるニーズに対応できるようにしていきたい。

Q)日中支援型グループホームは、障害の重度化、高齢化等により、日中活動が難しくなった人がその人らしく地域で暮らせるということが想定されている。受け入れ予定の年齢層を見ると、ほとんどが働き盛りの世帯でギャップを感じる。

A)今受けているホームの平均値を案分して振り分けた。高齢層を受けないわけではない。問い合わせがあれば、受け入れることを前提に対応していきたい。

Q)この年齢層の受け入れを想定しているのなら、日中活動の場に現在参加している方だと思う。日中活動をストップさせるのか？今、日中活動の場に通いたい人が継続したいと言ったら継続させるのか？

A)希望を捉え、継続できるものは継続し、できる範囲でやりたいことを実現してもらえればと考えている。

意見)その方針で18人はかなり難しいと思う。

Q)職員配置について。世話人10人、生活支援員4人と記載あるが、日中支援型の世話人配置は5対1？定員20人の場合、世話人4人ではないか？

A)想定の中で、生活支援員=有資格者という捉え方。世話人は無資格とした場合に10人としている。実際は、異なる割合に置き換わると思う。

Q)世話人は定員に対応し配置、生活支援員は利用者の支援区分に対応した配置。

提示されている人数では基準を満たさないのではないかと？

A)支援員は4人で基準を満たしているという想定。

A)障害福祉課より：満たしている。有資格者4人、無資格者10人の計14人でフレキシブルに対応と聞いたので、基準に合うと判断。

Q)基準に合わないと思う。運営要領に書いてある。生活支援員4人では難しい。夜間支援従事者も2人を確保しようと思うと1人ではまわらない。ワンユニットだけでも、2人～。週によっては、3人程度必要になることもある。今後は、職員配置シフトも入れていかないと具体的な支援体制がわからない。今後は、シフトも含めた具体的な配置人数を。

Q)高齢の方を迎えた時の看取りの要望が出た場合について。

A)法人では、障害の部分での経験値はない。高齢者の施設経験等あるので、その中での経験はある。現状すぐできるかと言われると、仕組みが整っていないとかなり危険と考える。今後、職員の教育を行い取り組んでいきたい。

Q)受け入れができない人はどのような実態か？

A)年齢層ではなく、強度行動障害等で受け入れができないケース、本人及び家族から断られることがあった。

Q)触法、リストカット等ケースの受け入れは？

A)触法は別法人で受け入れ経験がある。リストカット等についても受ける前提での協議・検討をしていきたい。

Q)建物について。自分で歩ける方が対象？

A)歩ける方が多いという想定で作成している。

Q)車いす、高齢の方も、避難経路は外・内階段なのか？

A)その想定。

Q)トイレ、脱衣所は全介助のイメージないのか？

A)全介助も機械浴もあるので、その対応範囲で想定している。

Q)脱衣所、トイレにもベッドが入る？

A)フルリクライニングの方はやり方を考えないといけない。座浴の機械浴は入れるので、その対応範囲でと考えている。

Q)トイレが少ないように思う。また、トイレの中にベッドは入らないのか？

A)車椅子の方は1ヵ所で対応。トイレの中にベッドは入らない。

Q)市のルールで、日中支援型は、日中活動の場の確保が必要だったと思う。日中活動の場所をどの場所で満たしているのか？

A)障害福祉課より：図面上、居間と食堂と判断。

Q)この図面は土地の形上この形なのか？それとも実践的な意図があつてなのか？暮らしの場と考えると、リビングを挟んで5人5人ということは考えられないのか？

A)介護包括はそうしているが、日中支援はこの形がベターとしている。

意見)5～6人のフロアにしないと、強度行動障害の対応は難しい。建物が人の行動を制限しないことが望ましいと思う。

○日中サービス支援型グループホーム B

※詳細は別紙事業実施状況報告書参照

- ・中・重度の障害者を主な対象とし、有資格者を積極的に採用している。
- ・平均区分は、男性 5.1、女性 4.2。
- ・個室を提供。
- ・車いすの利用者でも安心して利用ができるよう、トイレは整備されている。

Q)4 ページでリハビリと出ているが、計画は立てているのか？

A)訪問看護が来て、リハビリ等を行う。

Q)訪問看護利用者は何人いるのか？

A)具体的な数は今すぐ回答できない。半分程度はいる。

Q)コミュニケーションとは？

A)職員との会話、安否確認。コミュニケーションを想定。

Q)2 ページで 20 代、30 代の方が 7 人いる。この 7 人の方の障害が重いのか？

A)おっしゃる通り、区分が高い方となっている。

Q) 就労継続支援 A 型の方の区分は？

A)40 代で区分 4。本人の障害特性を鑑み、社会資源が必要と判断した。個別のニーズを汲み取り、就労継続支援 A 型でも通えると判断した。

Q)7 ページ地域交流とは？

A)買い物支援、受診同行等。

Q)8 ページ“第三者の視点から俯瞰して確認が出来るように、相互確認の場も設け”とは、具体的に何のことなのか？

A)第三者からみないとわからない言葉遣い等、他の職員からも見ているよとおう相互確認。会議はしていない。

Q) 9 ページのケア会議の対象は？

A) モニタリングとセットで行っている。管理者、生活支援員等が出席している。

Q) 資料 2 ページ目の日中活動状況について。日中活動を利用している人が 18 人／19 人。利用日数も踏まえて考えると、日中ホームを利用しているが 2 人程度。毎日 16 人程度の方が通所していることになる。4 ページ目で 3 名の方の過ごし方をあげているが、音楽鑑賞、TV 鑑賞とはどのように行っているか？

A) 自室で TV 鑑賞をしている。人と接することが苦手な方。安否確認は行っている。

Q) 日中は、ユニット別で行っている？利用者は居室にすることが多い。

A) ユニット別に行っている。職員は日中 3～4 人程度。多くて 5 人。

Q) 日中、利用者がいない状態で、職員は何をしているのか？

A) 職員は、買い物、通院同行等を行っている。

Q) 日中ほとんど利用者がホームにいない現状をどのように考えているのか？

A) 利用者の社会参加と考えている。利用者個人の特性に応じて支援を提供している。

Q) 包括型で過ごせないのか？

A) 通所先の送り出し等が必要。

Q) 送迎のある通所先も増えている。従来型の利用者の姿と変わらないように思う。現状の体制でよいと考えているのか？

A) そう考えている。

障害福祉課課長補佐兼施設係長より

- ・ 本日の報告について質問などある場合は別紙ロゴフォームの入力をお願いしたい。

- ・ 第 78 回自立支援協議会で報告をいただいた事業所の資料も配布している。

(2) 令和 6 年度川口市障害者相談支援センター行政報告

(障害福祉課支援係担当者)

○自立支援協議会資料③「市町村における相談支援」

- ・ 前年度と比較し、相談支援を利用している実人数が 2160 名から 2707 名と約 550 名増加。

- ・ 利用分野の内訳としては、精神障害の児童 (21 件から 39 件)、発達障害の児童 (31 件から 52 件)、18 歳以上の者の分野 (47 件から 118 件) で大幅に増加し、発達障害だけでも合計が 78 件から 170 件と倍以上の数値となってい

る。

・支援内容は「保育・教育に関する支援」の項目が522件増、「社会参加・余暇活動に関する支援」の項目が372件増（1963件から2335件）となっており、日中活動や、他者・地域とのつながりをどのように確保していくかということについての相談が増加していることが伺える。

・相談の内容をさらに細かく把握するため、今年度より相談者の年齢、障害種別、居住地、相談内容等を相談支援センターごとに報告していただき、月ごとに集計を実施。統計とあわせて地域の傾向やニーズをとらえ、課題抽出、そして適切な支援の提供に繋がっていきたいと考えている。

Q)行政説明の赤字部分は？

A)前年度より倍以上数が増えているところは、赤字になっている。

○自立支援協議会資料④「第8期川口市障害者自立支援計画 令和7年度版」

・福祉計画を基に、各部会等で今年度重点的に取り組むべきものが記載されている。

・部会、相談体制整備の報告と重複する部分があるため割愛する。

(3) 川口市障害者就労支援センターからの報告

※詳細は自立支援協議会資料⑤参照

- ・令和7年3月～同年5月末までの数字について報告。
- ・身体・知的・精神併せて3か月間で、相談者数は33名増加。
- ・川口市障害者就労支援センターの役割について説明。

Q)就職前、就職後のフォローアップについてご支援いただいている。中核市なので、人口に伴い障害者の数も多い。これだけの規模の自治体になると対応しきれないのでは？

A)対応しきれないと感じている節はある。支援員は3名で、新規ケースはまだしも、既存ケースの対応が十分にできていない状態。

意見)市の委託事業なので、就労支援センターの拡充の検討を。

意見)発達障害の支援を数字であげていただきたい。

(4) 4つの相談体制整備の報告 (相談支援連絡会代表)

※自立支援協議会資料⑥～⑨参照

- ⑥人材育成
- ⑦権利擁護
- ⑧高次脳機能障害者支援
- ⑨精神保健医療福祉ネットワーク

(5) 各部会の活動報告

※自立支援協議会資料⑩～⑬参照

⑩くらし部会

- ・日中サービス支援型グループホームのニーズや課題の整理が大きなテーマ。
- ・障害や対応の大変さが、区分に反映されづらい場合もある。
- ・日中サービス支援型グループホームの評価の在り方についても検討が必要。
- ・短期入所施設の充実も拠点と併せて考えていきたい。

⑪日中活動部会

- ・就労選択支援の指定申請の説明が市よりある予定。
- ・医療ケアの受け入れのある事業所との意見交換を予定。
- ・地域活動支援センター、就労継続支援事業所 B 型事業所等における、工賃及び処遇の実態把握についても取り組む予定。

⑫むすぶ部会

- ・あいサポートキッズの普及啓発を進めていく。
- ・相談体制整備で取り組んでいたピアサポートを引き継ぎ、むすぶ部会の中で取り組んでいく。

⑬子ども部会

- ・今年度は、障害児通所事業所間の連携を強化し、課題や情報の共有を行うこと、「家族支援」をテーマに事例検討とアンケート調査を行い、児の成長発達や養育環境に影響した要因や背景等について検討すること等を活動目標とする。
- ・児童発達支援センターを中心とした、障害児相談支援体制の整備等が課題。

(6) 各協議会の報告

※自立支援協議会資料⑭～⑮参照

⑭医療的ケア児連絡協議会

- ・昨年度までは、コーディネーターワーキングチームとして実施していたものを、今年度より医療的ケア児等コーディネーター連絡会として実施。提供された事例をもとに、グループワークを行っている。今後は、施設見学も予定して

いる。

・医療的ケア児連絡協議会では、医療的ケア児とその家族を支える資源や制度についての正しい情報の共有が必要という意見が出ている。

⑮川口市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進のための協議の場

・今年度より当事者会が委員に加わる。国の事業を活用し、密着アドバイザーも相談支援センターより選任している。

・昨年度に引き続き「住まい」に焦点を当て、課題について検討を継続予定。

・課題解決に向け、医療・保健・福祉それぞれの立場の従事者を対象とした研修会を開催予定。

(7) 川口市障害者福祉計画（令和6年度～）進捗状況について

障害福祉課課長補佐兼庶務係長より

・毎年度、目標値の達成度合いを評価する必要があり、自立支援協議会等で出たご意見を社会福祉審議会で報告予定。

・今回の評価については、基本目標1～6の施策、それに伴う施策について評価を行う。

・令和6年度については、令和7年2月頃に各事業所にアンケートを実施し、実績を掲載している。

・みなさまよりご意見いただきたいが、障害福祉施策が多岐に渡り、目標値も確認すべきところが多い。令和7年7月18日頃までにご意見いただきたい。

3. その他

・特になし

4. 事務連絡

【川口市自立支援協議会 令和7年度の日程について】

第80回 令和7年11月21日（金） 14：00～ 青木会館 3階 会議室B

第81回 令和8年 3月19日（木） 10：00～ 本庁舎 501会議室

5. 閉会